



連載
ジョン・アダムズ：
フラワリング・ツリー
※
花咲く木

—2—

オペラという
“神話”を描く演出家
ピーター・セラーズ



ピーター・セラーズ

演出家ピーター・セラーズと作曲家ジョン・アダムズが初めて出会ったのは1980年代初頭、ニューハンプシャー州のモナドノック音楽祭でのことだった。ハーバード大学を卒業したばかりのセラーズがこの音楽祭で演出したのは、ハイドンのオペラ《アルミーダ》。聖地エルサレム奪回のために十字軍を率いる騎士リナルドと、それを阻止せんとする異教徒サラセン

の魔女アルミーダとの間に生まれる、愛と葛藤の物語である。ところがセラーズは、なんとこの作品の舞台をベトナム戦争の戦場に置き換えてしまったのだ。考えてみれば、十字軍もアメリカ軍も“聖戦”を掲げて異国の地に遠征し、輝かしい勝利とは程遠い結末を迎えた点では同じ。しかも、アメリカ軍は戦略上の必要性からベトナムの広大なジャングルを焼き払ったが、《アルミーダ》の最終幕でも騎士リナルドが異教徒を倒すため、森の樹を切り倒す場面が出てくる。これでは、状況がまったく同じではないか！そこでセラーズは騎士リナルドをアメリカ軍兵士に、魔女アルミーダをベトナム軍の女スパイという設定に仕立て上げた。とは言え、終結してからまだ10年も経っていないベトナム戦争の光景が、よりによってハイドンのオペラの舞台で登場するとは、おそらく観客の誰もが予想していなかったはずだ。当然のことながら上演は賛否両論を巻き起こし、セラーズの名は一躍広く知られるところとなった。驚くべきことに、この演出を手がけた時、彼はまだ24歳にも達していなかったのだ。

西洋音楽史を紐解くまでもなく、オペラとは基本的に“神話”を扱うことが得意なパフォーマンス・アーツである。実際に神々が登場する太古の神話をベースにしているものもあれば、現代の娯婦を題材にした作品もあるが、どんな“神話”にも長い

時間をかけて人類が共通の認識と見なしていった、ある普遍的な知識や真理が必ず存在する。それを音楽や詩で多層的に表現していく時、オペラは真にユニークな魅力を発揮するわけだ。これまでも、セラーズはことあるごとに「オペラとは神を扱ったもの」だと明言し、彼のオペラ観の根底に“神話”が重要な位置を占めていることを伺わせてきた。だが、セラーズの演出が真にユニークなのは、単に“神話”を“神話”のまま終わらせず、それを可能な限り現代化し、きわめてリアルで説得力のあるドラマとして再構成する点である。別の言い方をすれば、神話の中に流れる時間軸(神話的時間)と、観客である我々が生きる現実の時間軸(現在)との間にある垣根を取り払い、我々の目線で“神話”を見直すことを可能にするのである。いや、逆に“神話”の目線から我々を見直す



私の神は誓いするために お生まれに...
だから 起こしておきましょう

東京交響楽団
第501回定期演奏会(2003年3月)
《エル・ニーニョ》(演出:ピーター・セラーズ)
の舞台より

言ってもいいかもしれない。そうした時空を越えたボーダーレスな視線、眼差しがセラーズの演出の大きな魅力なのだ。

おそらくセラーズのオペラ演出で最も有名なものは、モーツァルト没後200年(1991年)を記念してウィーンで制作された《フィガロの結婚》《ドン・ジョヴァンニ》《コジ・ファン・トゥッテ》の“ダ・ポンテ3部作”のテレビ用演出であろう。この3部作でセラーズは物語の舞台をすべてアメリカに移し変え、あたかもハリウッド映画のような舞台を演出させて観客の度肝を抜いた。すなわち《フィガロの結婚》はニューヨークのトランプ・タワーを舞台にしたウディ・アレン風の恋愛悲喜劇、《ドン・ジョヴァンニ》は麻薬と暴力のびこるスラム街での犯罪ドラマ、そして《コジ・ファン・トゥッテ》は1950年代の食堂で繰り広げられる『アメリカン・グラフィティ』風のナンパ合戦、といった具合である。特に《ドン・ジョヴァンニ》では、タイトルロールとレボレロ役は黒人兄弟という設定に変更され(実際に兄弟の歌手がキャスティングされた)、麻薬に依存して生活せざるを得ないスラム街の悲惨な状況が、結果的に登場人物の反社会的行動——つまりドン・ジョヴァンニの婦女暴行と殺人——を引き起こすのだという、驚くべき解釈が提示されていた。《ドン・ジョヴァンニ》とは、単に1000人斬り2000人斬りを達成した色男を面白おかしく描いた説話ではない。なぜ、そのようなことが起きるのか、セラーズ自身の言葉を借りれば「なぜ人間はこんな行動をするのか？」という疑問が彼の演出の根底には常にある。そうした疑問を深く掘り下げていった結果、《ドン・ジョヴァンニ》の舞台をスラム街に移し変える大胆な発想が生まれたと見るべきだ。逆説的な言い方かもしれないが、とにかく“誇大妄想”とか“ありえない絵空事”とも揶揄されるオペラの物語を、セラーズほど真摯に受け止め、誠実に解釈しようとする演出家は他にいないのではないかと。

話をモナドノック音楽祭に戻すと、《アルミーダ》のためにセラーズはキッシンジャー元国務長官——言うまでもなくベトナム和平交渉の中心人物である——の回想録を読み耽り、演出に備えていた。そんな時、セラーズは同音楽祭で演奏されたアダムズの弦楽合奏曲《シェイカー・ループス》を聴き、音楽の持つドラマティックな要素に感銘を受けたという。頭の中がベトナム戦争でいっぱいだったセラーズは、思わずアダムズにこう持ちかけた。「ニクソン大統領の中国訪問をオペラにしないか?」。この会話がきっかけとなって生まれたのが、アダムズのオペラ第1作《中国のニクソン》であり、以後セラーズとアダムズは《クリングホファーの死》《私は天上を見つめ、それから空を見た》《エル・ニーニョ》《ドクター・アトミック》《フラワリング・ツリー》とこれまでに6作の舞台作品を生み出している。

このうち、筆者は東京交響楽団による《エル・ニーニョ》の日本初演とサンフランシスコ歌劇場による《ドクター・

アトミック》の世界初演を見ているが(台本構成はいずれもセラーズが担当)、両作とも“神話”というものに真剣に向き合い、そこから生々しい人間ドラマを生み出そうとするセラーズの特徴が非常にわかりやすく表れた上演であったと思う。前者の上演では、聖母マリアの処女懐胎という“神話”を現代の風景に置き換えるため、舞台上に巨大なスクリーンを設置。そこにダンサーたちが躍動的に表現する処女懐胎の物語を映し出すことで、史上最も有名な“誕生の神話”をヴィヴィッドに甦らせることに成功した。一方、《ドクター・アトミック》はロバート・オッペンハイマー博士率いる科学者チームが行なった史上初の原爆実験(トリニティ計画)を描いた作品であり、キリスト降臨とは全く対極的な“破壊の神話”である。セラーズはその“神話”を深く掘り下げるため、オッペンハイマー博士が愛読していたというインドの古典「バガヴァッド・ギータ」を台本の中に引用し、人類が太古から抱いていた不安が現実のものとなった恐怖を明らかにした。だが、それだけではない。《ドクター・アトミック》の終幕、音楽がすべて鳴り終わり、舞台が闇に包まれた瞬間、セラーズは「水をください」という長崎の原爆詩を日本語のナレーションで流したのだ(しかも英語字幕なし!)。その激烈な効果たるや、いま舞台を思い起こしても鳥肌が立ってくるほどである。

かつてモナドノック音楽祭で《アルミーダ》とベトナム戦争の類似性を見出し、ジョン・アダムズの知己を得たピーター・セラーズは、それから約四半世紀後、モーツァルトの《魔笛》と南インドの民話に類似性を見出し、アダムズと共に《フラワリング・ツリー》を生み出した。セラーズが今度はどんな“神話”を《フラワリング・ツリー》で表現してくれるのか、12月の日本初演が待ち遠しくてならない。

参考文献:
Thomas May, "Creating Contexts: Peter Sellars on Working with Adams." In "The John Adams Reader: Essential Writings on an American Composer," ed. Thomas May. New York: Amadeus Press. Peter G. Davis, "Opera: Haydn Moved to Vietnam." The New York Times, Sep. 6, 1981.
"An Interview with Peter Sellars." In an edited transcript of an interview conducted for the making of PBS Program "The Question of God".

第562回定期演奏会
2008年12月6日(土)6:00p.m. サントリーホール
ジョン・アダムズ：
フラワリング・ツリー ※ 花咲く木
(全2幕、日本初演、セミ・ステージ形式、英語上演、字幕付)
指揮：大友直人 演出：ピーター・セラーズ
クムダ：ジェシカ・リヴェラ(ソプラノ) / 王子：ラッセル・トーマス(テノール)
語り部：ジョナサン・レマル(バス・バリトン)
舞踊：ルシニ・シディ/エコ・スプリヤント/アストリ・クスマ・ワルダニ
合唱：東響コーラス / 合唱指揮：有村祐輔
S ¥10,000 A ¥8,000 B ¥6,000 C ¥5,000

ピーター・セラーズ講演会 2008年12月5日(金)18:30~
明治学院大学白金校舎アートホール・入場無料
■主催：明治学院大学 / 日本アルバン・ベルク協会
■問 03-5421-5380 (明治学院大学芸術学部共同研究室)